

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600891		
法人名	株式会社 無限倶楽部		
事業所名	グループホーム幸福の里 あすか		
所在地	苫小牧市錦岡647-14 (電話) 0144-68-3555		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年8月17日	評価確定日	平成21年9月4日

【情報提供票より】 (21年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算	10.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円		水道光熱費	16,000円
	その他の経費(月額)		暖房費(10~3月)	8,000円
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	69歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神谷病院、K&A整形外科、青葉歯科、錦岡医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの大きな特徴の一つに、利用者の能力の維持、または回復への努力にあります。戸外に出てのイベント、神社参拝や紅葉祭り、陶芸企業の協力をいただいて陶芸作りへの挑戦など、利用者全員が参加しています。仲間同士のスキンシップに加えて他の人達との交流が利用者の内在する意欲の喚起に繋がるものと思慮します。職員は見守りながら利用者に「出来ることはやっていただく」の考え方が行きわたっています。また、太平洋を一望できるリビング、樽前山の四季折々の彩が一望できるウッドデッキなど、話題性に富んだ暮らしをエンジョイしています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価は初めてです。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての評価で、評価の意義の理解と活用について職員が十分に理解されていない部分があります。作成に当たっても運営者と管理者、主任など少数で作られ、職員全員の共同作業とはなっておらず、改善への取り組みが強く望まれます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の設置要綱はあるものの、開催は平成20年2月の第1回開催に止まり、以後の開催はありません。外部のメンバーが参加した運営推進会議が何故必要かの原点に返り、定期的な開催に向けた運営者のリーダーシップを強く期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員間で共有が図られている「些細なことでも家族が話しやすい雰囲気作り」が一番大切なことと思慮します。ホーム便り「あすか」や職員の手書きのおたよりも家族とのコミュニケーションに役立っているものと思われま。本年9月に設立が予定されている家族会を通して家族の意見や要望が円滑に出され、ホーム運営に反映されるよう期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅が少ない地理的な条件の中、運営者、管理者、職員は地域との交流を目指して努力しています。町内会行事への積極的な参加、ホーム行事への住民招致、地域のキャラバンメートの推進などにより徐々に交流の場が広がっています。これからは近くの幼稚園児、小学校の児童などとの交流も検討されており、地域との連携が一層深まることを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームには、企業理念及びケア理念がありますが、企業理念は長文かつ判りづらく、ホームが目指す地域密着型サービスのあり方を端的に示す理念とはなっていません。	○	理念には従来の家庭的な環境作りに加え、地域住民との交流を踏まえた、利用者が地域の一人としての暮らしを支え継続できるサービスの提供が望まれており、これらを踏まえ改めてホーム独自の誰が見ても判りやすい理念作りを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝行なわれる朝礼でケア理念を復唱してサービスの徹底を確認し合うなど共有を図っています。また、職員は地域との繋がりを念頭に利用者の交流機会の確保に配慮した支援が行なわれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周囲の住宅が少ない環境下にあります。町内会の行事、祭りなどには積極的に参加して地域にとけ込む努力をしています。ホームの「あすか祭り」には近隣の住民も参加していただき、徐々に交流の輪が広がっています。これからは幼稚園や小学校の児童との交流に向けた企画が検討されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価への取り組みのため、職員全員が評価の意義と今後の活用について理解がされていない部分があります。評価の作成についても運営者、管理者、主任などで作られており、職員全員が参加して日常のサービスの振り返りには至っていません。	○	評価のねらいや活用方法について職員全員の理解が必要であり、職員各自が自己のサービスを評価することで質の確保と、より向上を図る取り組みが望まれます。また、質の確保や向上がどのように進められているかの検証が行なえるシステム作りを期待します。

苫小牧市 グループホーム幸福の里 あすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置要綱は作られています が、平成20年2月の第1回開催以後の開催はありません。職員の異動など諸事情は理解できますが、ホームの運営に不可欠な運営推進会議への再認識が求められます。	○	会議のメンバーの理解をいただきながら、定期的な開催への取り組みが強く望まれます。また、会議ではホームの状況報告等に止まらず自己評価及び外部評価への取り組み過程も報告しながら、メンバーと協働体制によるサービスの質の向上への取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在では、まだ市の担当者と連携体制が取れていません。	○	市とは、市民福祉を推進する最前線として認識して、連携を密にしながら協働しなくてはなりません。ホームの状況、抱えている問題、運営推進会議の様子、評価での取り組み状況など市の窓口に報告、相談しながら積極的な連携を期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム日より「あすか」は毎月発行され、利用者のホームでの様子や、イベントでの笑顔などを満載して家族の好評をいただいています。職員は担当する利用者の様子を手書きの「おたより」として家族のもとに送付しています。また、来訪時や電話で利用者の様子を詳細に説明するほか、金銭管理の報告についても改善に向けた検討が行なわれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する家族からの意見・要望また苦情などは、来訪時を利用して行なわれるほか、電話での聴取が行なわれています。ホームではより良い家族とのコミュニケーションを図るため、本年9月を目途に家族会を設立する予定で準備されています。管理者並びに職員は、家族が些細なことも話しやすい雰囲気作りが大切であるとの考えで日々実践しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期多かった職員の退職など異動も少なくなり比較的安定しています。異動が生じた場合は利用者の不安をできるだけ少なくするよう職員全員でカバーし合いながら、早く馴染みの関係が構築されるように配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催される職員会議を利用して、管理者が中心となって勉強会が行なわれています。また、外部研修にも参加していますが、職員全員が対象となった研修体制には至っていません。	○	職員のスキルアップへの対応はホームのサービスの根幹となるもので、運営者の大きな配慮が必要と思慮します。内部の勉強会にも専門の講師を招致するなど、また、外部研修に際しては、予め研修受講計画を作成し、職員のスキルアップに対応する取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はグループホーム協議会や連絡会を通しての同業者交流が行なわれていますが、ネットワーク作りによる地域同業者との相互訪問には至っていません。	○	ホームの質の向上には、同業者との交流や連携は不可欠です。管理者や職員が地域の同業者とネットワーク作りや勉強会を通じて連携を深めながら、サービスの質の向上を図る取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前は、家族と利用者がホームを訪問いただき、雰囲気慣れるよう配慮するほか、自宅を訪ねるなど、職員との馴染みができるように気配りし、ホームでの生活が円滑に行くようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に暮らす中で喜怒哀楽を共にしながら、ケア理念に謳われているように「出来ることへの喜び」を共に分かち合いながら、暮らしをエンジョイする関係作りをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から利用者の生活歴、これまでの暮らし方、環境などを十分にアセスメントしながら、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するようにしています。また、職員個人の情報とはせずに職員会議（カンファレンスを兼ねる）に於いて共有を図っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良い暮らしが継続されるため、アイデアをだしながら職員間で話し合いが行なわれており、家族からの情報も加え、介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	詳細多岐にわたるアセスメントを基にした介護計画は、日々の弛まぬモニタリングにより適切な介護サービスが実践されています。職員間では、家族の意見や情報を計画に反映させる方法について今後の取り組み課題としています。また、体調の変化があった場合は、計画の見直しが随時行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の状況に対応するため、病院受診の際の送迎や同行、また、買物や理美容院への送迎など柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医受診には希望に沿った支援をしています。ホームでは協力医療機関と連携を図りながら、利用者の健康管理も行なっており、かかりつけ医へと移行した事例もあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	あらゆる事態を想定した指針があり、重度化に向けた体制が出来ていますが、現在では事態が起きた段階で家族と話し合われています。これからは出来るだけ早い段階（入居に際しての重要事項の説明の折）に説明が出来るよう検討することとしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のネームプレートも利用者の希望を尊重して、さまざまな表示となっています。職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応が徹底され、日々のサービス支援に生かされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ウッドデッキでの日向ぼっこ、テレビ観戦、生け花など、利用者一人ひとりの生活パターンを大切に支援が行なわれています。職員間では、もっとその人らしい暮らしが出来るようハードルを高くした取り組みが検討されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部の供給会社から運ばれており、献立に従い職員と利用者が調理をしています。また、準備、配膳や後片付けなど楽しみながら行なわれています。食事では職員も一緒に仲間入りして楽しい会話が飛び交うなど、明るい食事風景が展開されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴していただいています。夜間の入浴も希望に沿えるようシフトを組むなど配慮しています。職員は見守りをしながら、利用者のゆっくりとした入浴を支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1階のウッドデッキは日光浴に都合がよく、利用者と職員の語らう気晴らしの時間に使用されています。生け花でリビングを飾る利用者、鉢植えを楽しむ、金魚の世話、食後の食器洗いなど、利用者の出来ることは積極的に行なっていただくよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の日には日常的にホームの近辺を散歩しています。JRの駅まで散歩して休憩するなど、利用者の好みを優先して外出の支援をしています。冬季間を除いて毎月1回はドライブをして、外食ツアーや弁当持参の公園散策、近くの神社参拝、全員参加の陶芸教室での陶芸挑戦など、多彩な戸外への支援が行なわれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やユニット間の鍵をかけず自由に行き来しています。1階の玄関のみ夜間8時から翌朝6時30分までは防犯のため施錠して安全を確保し、日中は職員の見守りにより施錠は一切ありません。		

苫小牧市 グループホーム幸福の里 あすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	この地域は、樽前火山の噴火災害、津波や高潮、地震の多発など、多くの災害に備えた配慮が必要であり、災害対策は必須となっておりますが、運営推進会議で協力要請の形跡は見られるものの定期的、また組織的な避難訓練は実施されていません。災害に対するマニュアルの整備も十分ではありません。	○	ホームの運営規程では年2回の避難訓練実施が定められており、遵守しなければなりません。また、災害対策へのマニュアル作りは早急に取り組み職員全員で十分な共有が必要です。消防署の指導をいただきながら、夜間想定での避難訓練や近隣住民への具体的な協力要請など、早急かつ確実な取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の供給会社による栄養管理が行なわれており、当該社員の定期的な訪問や連絡を緊密にしながら、適切な栄養摂取の確保が行なわれています。また、利用者の状態により食事の内容を変えるなどの気配りをしています。水分摂取量は1日の目安を1500ccとして支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い駐車場（祭りなど行事も可能）と入りやすい玄関、広々としたリビングや食堂と厨房は利用者のゆったりとした暮らしのエンジョイに役立っています。リビングに面した大きなガラス張りの向こうには車両が行き交う国道と太平洋が一望でき、またウッドデッキからはJRと樽前山を眺めることができるなど、季節毎に変わるロケーション豊かな共用空間があり、利用者のゆったり感が醸成されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれたベットや家具、テレビ、使い慣れた整理ダンスなどの配置は利用者と家族に任せています。ソファや仏壇も備わるなど利用者の安心、ゆったりとした空間となっています。		

※ は、重点項目。